

びわこ成蹊スポーツ大学における柔道の授業について

林 弘典¹⁾

A Report on the Subject Judo at Biwako Seikei Sport College

Hironori HAYASHI

Key words : Judo, Jigoro kano, Seiryokuzenyo, Jitakyoei, cleaning

キーワード：柔道，嘉納治五郎，精力善用，自他共栄，清掃

1. はじめに

2012年4月より中学校において武道が必修化された。生徒の大半が柔道と剣道を選択し、そのうち約6割の生徒が柔道を選択している。そのため、中学校・高校の教員免許の取得を目指す者で、中学校の教員を希望する者は、柔道の授業を履修することが望ましい。なぜなら、柔道を教える可能性が高いからである。

びわこ成蹊スポーツ大学（以下「本学」と略す）では、教員免許に関する体育実技の中に柔道があり、多くの学生が履修している。そこで、本学において教員免許の取得を目指す学生に対する柔道の授業について報告する。

2. 授業の目的

本授業では、①安全に柔道を楽しむ（怪我をしない・させない）、②初段として必要最低限の技能や知識を身に付ける、③徳性を涵養



写真2 記念撮影（男子クラス）



写真1 立ち技の乱取りの様子



写真3 記念撮影（女子クラス）

1) スポーツ学部

するという3つの目標を掲げている。これによって、中学校・高校で柔道を教える者に必要な素養を身に付けさせることができる。

①については、怪我をすると楽しかったという喜びが薄れ、学業やクラブ活動、アルバイトなど日常生活に支障をきたしてしまうからである。

②については、単位を取得した学生のうち、希望者を初段に推薦している。そのため、柔道の創始者、成立年、正式名称、理念・原理、創始者遺訓（以下「柔道の概要」と略す）を手書きで紙に書いてきてもらい、すべて暗唱できたら合格というレポートを課している。なお、2015年度は82名の学生を初段に推薦した。昇段手続きを終えた学生の中には、自費で黒帯を購入する者がいる。その際、黒帯のネームに好きな色の刺繍を入れている。黒帯を受け取るときの彼らは嬉しくも誇らしげな顔をしている。



写真6 授業後のゴミ

③については、柔道場へ出入りするときに、帯を結び、服装を正して立礼をするように指導している。また、人の話を聞く姿勢についても指導している。授業後、私を含めて学生全員で柔道場の掃除を行っている。他の授業やクラブ活動で柔道場を使用する人に快適に使ってもらいたいからである。なお、授業後の柔道場には意外とゴミが出る。



写真4 学生の購入した黒帯



写真7 学内清掃（講義室）



写真5 授業後の清掃



写真8 学内清掃（外）



写真9 本学～JR比良駅までの清掃



写真10 清掃後の柔道場において

後述するが、柔道の目的は「世を補益する」、つまり「社会貢献」である。もっと簡単に言えば、「人のために役立つ」ことである。これは武道に共通する考えである。その一環として学内（講義室と建物周辺）と学外（本学からJR比良駅まで）の清掃を行っている。こうして、学生の道徳心を徐々に高めている。

3. 授業の基本的な流れ

学生は立礼をして柔道場に入り、出席・健康状態の報告を行う→号令・体操系の選出（ジャンケンで決定：アイスブレイクが目的）→始めの号令（座礼）→本日の授業内容の説明→準備体操（受け身）→固め技（前回の復習）→新しい技の学習→乱取り（座礼）→休憩（この間に柔道の概要を復習する）→立ち技（前回の復習）→新しい技の学習→乱取り（立礼）→終わりの挨拶（座礼）→柔道場の掃除→立礼をして柔道場を出るというのが基本

的な流れである。

本授業では、時間が掛かってしまうが、前回の復習を必ず行っている。前回学習した内容を思い出させることが目的である。また、教育実習や就職活動、クラブ活動による大会出場などで欠席した学生のための補講の意味も兼ねている。

4. 初段として必要最低限の知識

柔道を教える者として、柔道の概要は必ず知っておくべき知識である。したがって、毎回の授業において、問答形式で学生に質問し、知識の定着を図っている。また、その内容を手書きで記載して暗唱できたら合格というレポートを課している。暗唱は研究室や柔道場で一人一人丁寧に行っている。

- ① 創始者：嘉納治五郎（かのうじごろう）
1860-1938年（77歳没）
- ② 正式名称：日本傳（伝）講道館柔道（にほんでんこうどうかんじゅうどう）
- ③ 成立年：1882年（明治15年）
- ④ 理念・原理：精力善用（せいりよくぜんよう）、自他共栄（じたきょうえい）

精力善用＝何事をするにも、その目的を達するために精神の力と身体の力とを最も有効に働かすこと。「精力」とは精神の力と身体の力、「善」は善いと最善、「用」は使用する・働かすという意味。「最も有効に」とは、無駄なく、合理的に、効率的にという意味に近い。精力最善活用における「最」と「活」が省略されている。

自他共栄＝自分と他人との調和をはかり、お互いが繁栄していくようにすること。「自他」とは個人と個人、個人と集団、集団と集団という関係を意味する。「調和」とは、譲ったり譲られたり、助けたり助けられたりしながら、お互いが満たされるような関係を築くこと。その結果、みんなが繁栄する。自分と他人が調和できず、衝突する場合もある。相助相譲自他共栄における「相助相譲」が省略されている。

⑤ 遺訓（目的）：嘉納治五郎師範遺訓

柔道は心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は攻撃防禦の練習に由（よ）って身體（体）精神を鍛錬修養し、斯道（しどう）の神髓を體得する事である。さ（そ）うして是（これ）に由って己を完成し世を補益するが、柔道修行の究竟（きゅうきょう）の目的である。

柔道は精神の力と身体のとを最も有効に働かすことである。柔道の修行は、形や乱取りなどの攻防の練習によって心と体を鍛え、精力善用ができるようになることである。これによって自分という人間を完成させ、助け合い譲り合いながら世の中の人々のために自分の力を役立てることが柔道をする者の究極の目的である。なお、柔道をすることは精力善用を身に付ける方法であって目的ではない。



写真11 嘉納治五郎師範の写真

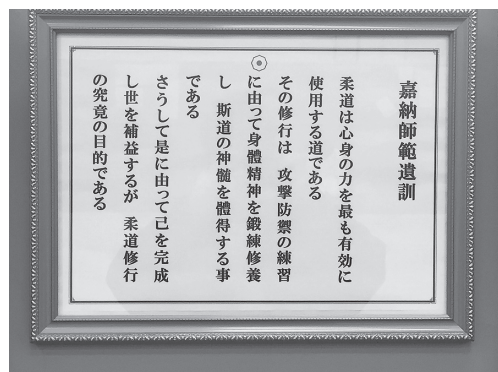


写真12 嘉納治五郎師範の遺訓

5. おわりに

国際柔道連盟の規約にも、柔道とは嘉納治五郎師範によって創始されたものであると明記されている。ゆえに、柔道の本義、柔道の本質、正しい柔道、柔道の原点、真の柔道と言った場合、嘉納師範が創始した柔道のことを意味する。2016年に出版された「柔道をよくしよう—柔道指導者の提言—」において、柔道界の多くの著名人は嘉納師範の創始した柔道の価値を認識し、その目的（遺訓）の重要性を指摘している。

嘉納師範は「教育のこと、天下これより偉なるはなし。一人の徳育、広く万人に加わり、一世化遠く百世に及ぶ（天下に教育ほど尊いものはない。一人の徳の教えは、広く万人に及び、一世の教えが百代後の世まで及ぶ）」という言葉を残している。教育者は生徒に多大な影響を与える重要な存在であることを意味している。この言葉にある「徳」を「悪徳」に置き換えても意味は通じる。この場合、柔道を正しく理解していない教員が教えると何十年に渡って間違った柔道が伝わってしまうことになる。

中学校や高校において、柔道を学ぶ生徒は非常に多い。教える先生が柔道の概要を正しく理解して教えることができれば高い教育効果が期待できる。また、柔道という日本独自の運動文化を守ることができる。今後も本学から正しい柔道を教えることのできる学生を育てていきたい。

引用・参考文献

- 1) 川村禎三、醍醐敏郎監修（2000）和英対照柔道用語小辞典。講道館：東京。
- 2) 講道館（1977）嘉納治五郎。布井書房：東京。
- 3) 公益財団法人全日本柔道連盟（2016）公認柔道指導者養成テキストA指導員：東京。
- 4) 公益財団法人全日本柔道連盟（2016）柔道をよくしよう—柔道指導者の提言—：東京。